



2009 年度 年次報告書

～日本におけるライオンズクエスト 10 年史～



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム（JIYD）



特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム（JIYD）

〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-63-302
TEL. 03-3440-3373 / 03-3440-4486
FAX. 03-3440-4447
E-Mail. info@jiyd.org
URL. www.jiyd.org



Vision & Mission			事務局挨拶
VISION すべての青少年が、以下にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。 ● 無条件に受け入れる大人が一人でもいる ● 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所 ● 心身ともに健康な生活習慣 ● 人のためになることをする機会 ● 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会 MISSION より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。			多くの方々の善意とご努力により、ライオンズクエスト「思春期のライフスキル教育」の普及活動は盛況裡に満10周年を迎えることが出来ました。ここまでの過程で何度か、活動の継続を断念する、という思いに駆られたことがございましたが、その都度、応援して下さいの方が手が差し伸べられてきました。そして、ワークショップに参加して下さいました教員の方々の熱心に受講なされているお姿や励ましのお言葉に支えられて参りました。事務局一同、心よりの感謝を申し上げます。 弊法人設立前の任意団体だった1999年夏に、このライフスキル教育プログラムに出会い、“心のすさみ”を見せ始めていた児童・生徒に、是非、伝えていきたい、必ず必要とされ役に立つ、という思いに駆られました。幸いなことに、翻訳をお引き受け下さいました方々はじめ、日本語パイロット版教材作成のご指導を頂いた大学の先生方や授業内容をご執筆頂いた現役教師の方々のご奉仕を仰ぐことが出来ました。新しい“クエスト”（Quest：探求、冒険の旅）にご参加・ご協力下さいました諸先生方に、改めて、感謝申し上げます。 爾来10年、2009年末までに、286回のワークショップを開催することが出来、7,497人の教師や青少年健全育成活動指導者の方々に受講して頂きました。全学年・全学級でこのライフスキル教育を実施して頂いている学校は、33校になりましたが、仮に受講して頂いた教師の30％が、なんらかの形でこのライフスキル教育を実施されたとすると、担任の生徒数を30人として、すくなくとも6万人強の児童・生徒にこのプログラムをお届け出来た、と思っております。 しかし、日本全国の小中学校、教員、児童・生徒の全体数を考えますと、ほんの一部の方々にお届け出来たに過ぎず、これからも長期に亘り、普及活動が続けていかなければならないと考えております。引き続き、皆様のご理解・ご支援・ご指導をお願い申し上げる次第でございます。 普及活動の地域的な広がりとともに、このプログラムを、より多くの教師に実践して頂き、一人でも多くの児童・生徒にお伝えすることが出来るようになる為には、まだまだ取り組んでいかなければならないことが、沢山ございます。まず、2010年には、①現場の先生方により実践的で活用し易い教材をご提供する為に現在の教材を改訂し、②このプログラムが教師や授業を受けた児童・生徒に及ぼす変化を統計的に把握できるようにしたい、と考えております。 今後とも一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げ、事務局からのご挨拶とさせていただきます。 事務局一同
01			02

●支援者・協力者

- 助成：
ライオンズクラブ国際財団



- 寄付：
ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会



トヨタエルアンドエフ東京株式会社



ダイドードリンコ株式会社



- 協力：
日本財団



ライオンズクラブ
International Youth Foundation (IYF)
IYF Global Partner Network
Lions Quest Internatinal Network

●事業協働

ライオンズクラブ国際協会

< LCIF 四大交付金事業実施地域 > (2009 年 1 月 ~ 12 月)

- ・330-A/C 地区 東京／埼玉
- ・331-A/B 地区 北海道（道央）／北海道（道北・道東）
- ・331-C 地区 北海道（道南）
- ・332-B 地区 岩手
- ・332-C 地区 宮城
- ・332-E 地区 山形
- ・333-A/D 地区 新潟／群馬
- ・333-B/C 地区 栃木／千葉
- ・334-B 地区 岐阜・三重
- ・334-C 地区 静岡
- ・334-D 地区 富山・石川・福井
- ・335-A/B/D 地区 兵庫（東）／大阪・和歌山／兵庫（西）
- ・335-C 地区 滋賀・京都・奈良
- ・336-A 地区 徳島・高知・香川・愛媛
- ・336-B 地区 鳥取／岡山
- ・336-D 地区 山口／島根
- ・337-B 地区 大分・宮崎
- ・337-C/D/E 地区 佐賀・長崎／鹿児島・沖縄／熊本

ライフスキル教育
普及事業

青少年活動
支援事業
(休止中)

●会員 (2009 年 12 月末日現在)

- 個人会員：91 名
- 法人会員：3 社
学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校
キックマン株式会社
株式会社スペースシャワーネットワーク



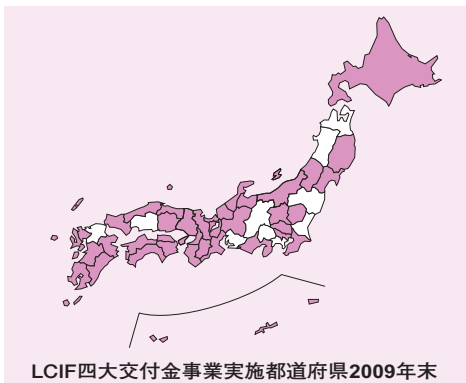
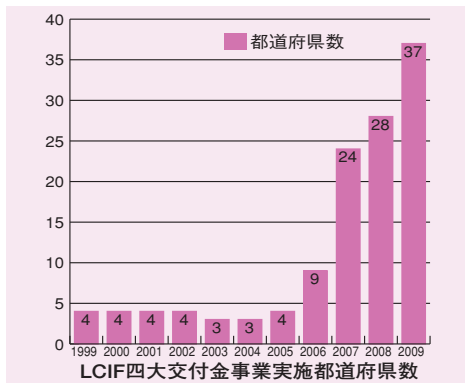
私たち、NPO 法人 青少年育成支援フォーラム（JIYD）は、
青少年の健やかな成長に役立つ活動やプログラムを広げていく、
そのために青少年の育成に係わる大人や組織を支援しています。

- ・ワークショップ
- ・体験会
- ・出張授業
- ・相談対応
- ・教材開発
- ・実施評価

学校（教員）
青少年活動指導者
NPO（スタッフ）

児童
生徒
青少年

ライオンズクラブ・JIYD						普及活動		小・中学校	
	ライオンズクラブ国際協会の動き	LCIF四大交付金事業実地区	教材開発・改訂	認定講師養成	ワークショップ開催	プログラム実施・評価			
1999		関東 (330複合地区)	1999年 ◆英語版教材の翻訳スタート				普及基礎づくり	1999	
2000	2000年 ライオンズクラブ国際協会国際会長が来日し、ライオンズクエストの日本導入を要請。関東（330複合地区）がパイロット地区となる決議。		2000年 ◆研究者・教員によるプログラム研究会発足。日本語版教材の研究スタート					2000	
2001				2001年 日本人認定講師誕生	2001年 日本でのワークショップ開催開始	2001年 ◆埼玉県内公立中学校にてプログラムのパイロット実施スタート		2001	
2002	2002年 LCIFがクエストインターナショナルよりプログラム著作権を買い取り。四大交付金事業に指定。		2002年 ◆日本語版教材完成	2002年 認定講師1名養成・認定				2002	
2003	2003年 JIYDがLCIFより日本におけるプログラム実施団体として認定を受ける。	神奈川・埼玉 (330-B・C地区)	2003年 ■補助教材開発スタート	2003年 認定講師2名養成・認定				2003	
2004						2004年 文部科学省のホームページにプログラムが掲載	全国展開へ	2004	
2005	2005年 青少年指導委員長の役職名がライオンズクエスト委員長に変更	東京・埼玉 (330-A・C地区)	2005年 ■補助教材完成（指導案）			2005年 初めての教育委員会主催ワークショップ開催		2005	
2006	2006年 日本のライオンズ必携（会則）にライオンズクエストプログラムとJIYDが掲載	京都・滋賀 奈良	2006年 ■補助教材完成 （概要書・保護者会運営手引書、保護者用副読本）					2006	
2007	2007年 第1回8複合ライオンズクエスト委員長連絡会議開催	福井・石川 富山	2007年 ●改訂・日本語版教材開発スタート	2007年 認定講師1名養成・認定	2007年9月 開催回数（2001年からの累計）が100回に			2007	
2008		北海道 (道央・道東)	2007年 ■補助教材完成（CD-ROM）					2008	
2009		大阪・兵庫 和歌山	2010年 ●改訂・日本語版教材完成予定	2009年 日本人上級講師誕生 認定講師2名養成・認定 （北海道・三重・岐阜のLCIF事業）	2009年 開催回数が年間99回、累計286回に	2010年 ●新評価事業開始予定		2009	

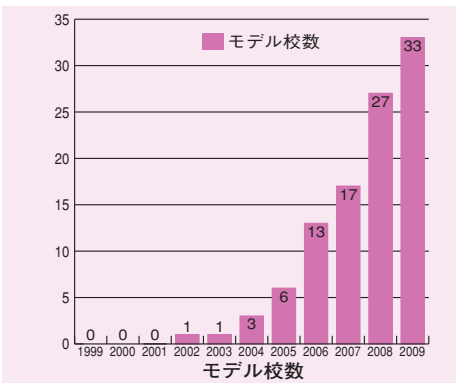
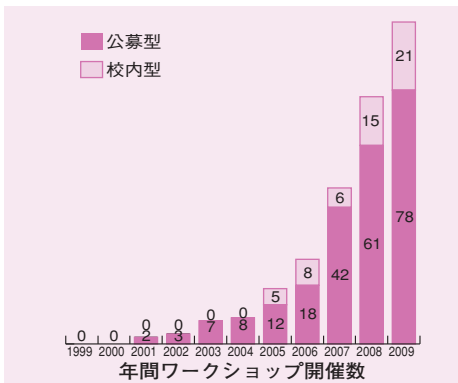


LCIF四大交付金事業とは・・・

主にライオンズクラブ国際財団（LCIF）からの助成金を活用し、ライオンズクラブの準地区単位で行われるライオンズクエストプログラム普及活動のことです。主に公募型・校内型ワークショップの開催や広報活動が行われます。

準地区とは・・・

ライオンズクラブの組織単位の一つで、1つの準地区は1～4つの都道府県で構成されています。現在47都道府県が35の準地区に分かれています。



普及の基盤づくりから、全国展開へ

普及の基盤づくり ～旗振り役として～1999年～2005年

ライオンズクエストプログラムの日本語版開発がスタートした1999年から2005年頃までは、日本でのプログラム普及に必要な基盤をしっかりと作る、いわば種まきの時期だったと言えます。またJIYDから小・中学校などに直接広報を行うとともに、全国のライオンズクラブが奉仕活動の一環としてプログラムの普及事業に取り組むよう働きかける、旗振り役を務めました。

- 日本語版の教材作成、パイロット校でのプログラム実施、ワークショップ講師の養成を経て、ワークショップを通して学校の先生にプログラムを学んでいただき、先生が教育現場で教材を使って児童・生徒にライフスキル教育を行う、という一連のプログラム実践の形が整いました。
- 2002年にプログラムの著作権がライオンズクラブ国際財団（LCIF）に移り、JIYDは、LCIFから日本におけるライオンズクエストプログラムの普及事務局としての指定を受けました。日本での普及活動を各地のライオンズと連携して進めるため、プログラムについて知ってもらい、ライオンズの奉仕活動の一環として普及活動を取り入れていくよう働きかけることもJIYDの重要な役割となりました。そのための広報活動を行うと同時に、パイロット地区となった関東のライオンズとともに地区単位、クラブ単位での普及活動のモデルを作り上げました。そしてこの普及活動モデルや実践校の成功事例を生かし、首都圏外のライオンズへも働きかけを行いました。
- こうしたJIYDの活動は、JIYD会員、ライオンズ（330複合地区）に加え、ルーセント・テクノロジー財団（現：アルカテル・ルーセント）、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会、森村財団、日本財団（ワークショップ会場のご提供）など、ライオンズクラブ以外の組織からも多くのご支援をいただき進めることができました。

全国展開へ ～各地のプログラム普及活動のパートナーとして～ 2006年～現在

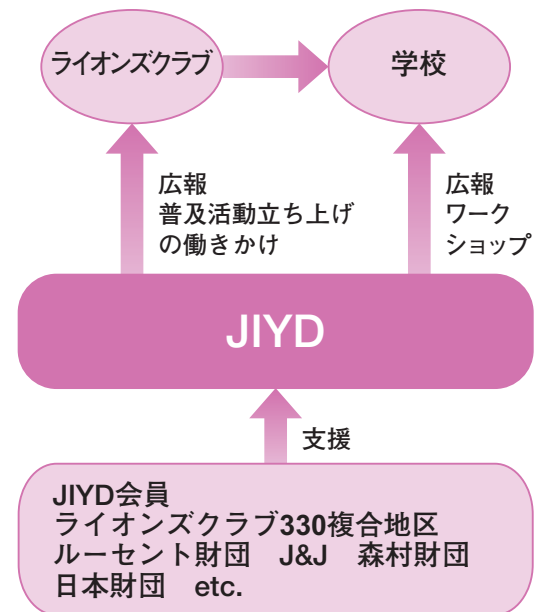
2006年に入ると北海道・近畿・北陸のライオンズがプログラム普及事業に乗り出し、この年を境に普及に取り組む地区は東北、東海、四国、九州・沖縄へと急激に広がりました。JIYDは自ら学校やライオンズに働きかける旗振り役から、全国のライオンズの取り組みを支援し、全国の活動を把握・調整し、またアドバイスをするパートナーにシフトしています。

- 関東で形になったライオンズの普及活動モデルが全国的に認知され広がるにつれて、JIYDの役割も次第に変化してきました。各地区のライオンズによる普及活動を支援したり、全国の活動を把握・調整したりするなど、日本におけるプログラム普及のパートナーとしての役割を果たしています。また教材改訂やプログラムの効果検証のための調査、認定講師養成など、プログラムの質の維持・向上や普及体制の強化といった役割も引き続き担っています。
- JIYDのみでは実現しえなかった全国への普及展開が、ライオンズメンバーの熱意・行動力とJIYDとの緊密な連携によって、実現したと言えます。

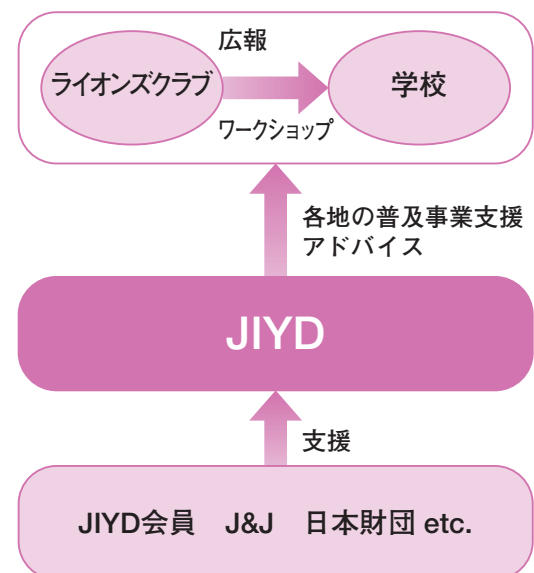
ライオンズクラブの普及活動モデル

- 準地区では
 - ・LCIF四大交付金事業を立ち上げ、運営する
 - ・各クラブへの啓発活動や、普及活動の支援（特にワークショップの開催）を行う
 - ・県の教育委員会へプログラムを紹介する
- 各クラブでは
 - ・メンバーのネットワークを活用して市区町村の教育委員会、学校、PTAなどにプログラムを紹介する
 - ・学校で体験会を開催する
 - ・公募型ワークショップへの参加を働きかけ、参加費を支援する
 - ・校内型ワークショップを開催してモデル校を開発する
 - ・モデル校に転入した先生に公募型ワークショップを紹介して参加してもらう

1999年～2005年の普及活動イメージ



2006年以降の普及活動イメージ



校内型ワークショップとモデル校という仕組み ワークショップを確実に実践につなげるために

ライオンズクエストプログラムがその効果を最大限に発揮するためには、全教員の理解と協力のもとに学校全体でプログラムを実施することが望まれます。所属を問わず参加者を募る公募型ワークショップでは、さまざまな地域の学校や多様な分野の方々にプログラムを知っていただくことができます。しかし、受講者が教育現場でプログラムを実践しようとする際、個人での取り組みでは授業時間を確保することが難しく、また実践できる内容が限られてしまいます。また所属する学校全体で実施するには全教員のワークショップ参加が必要であり、参加費負担が生じます。そのため、ワークショップ受講後に現場でプログラムを活用し、またそれを全校での取り組みに広げるのは困難な場合が少なくありません。

そこでワークショップを、プログラムの効果が最も期待できる全校実施に確実につなげるため、校内型ワークショップとモデル校という仕組みを作りました。学校に対して、ワークショップへの全教員の参加とプログラムの全校実施、つまりモデル校になることを条件に、参加費をライオンズクラブ（おもに各地区のLCIF四大交付金事業）が支援するのです。その結果、全校実施を希望する学校と、ワークショップを効果的に教育現場での実践につなげたい、モデル校を増やしていきたいというライオンズのニーズが合致した地域では、次々とモデル校が生まれました。2001年には1校だったモデル校は、2009年12月末現在、32校に増えています。

プログラムの効果検証

ライオンズクエストプログラムは、子どもたちが日々の困難を乗り越え自尊心を高め、自分の力を自他のために生かしていくことをねらいとしています。この目標が実際に達成されているのかを検証することは普及活動を行う上で必要不可欠です。JIYDではプログラムの効果検証のための方法を模索し続けてきました。そして2009年、発達心理学を専門とする大学教授と、健康教育を専門とするワークショップ認定講師の両名の協力を得ることが決まり、2010年3月より、三カ年にわたるプログラム評価事業をスタートすることになりました。

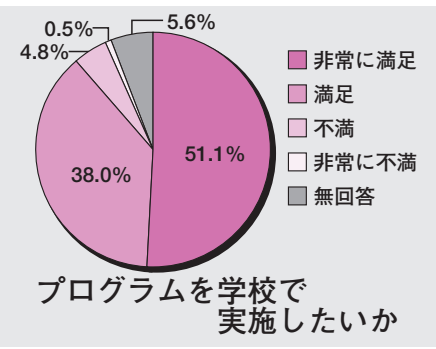
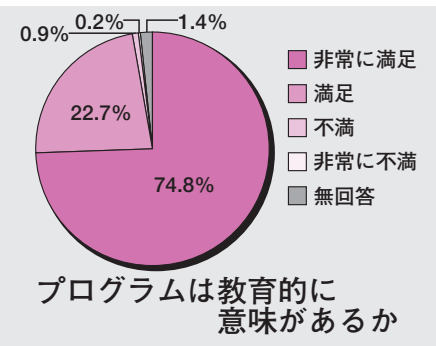
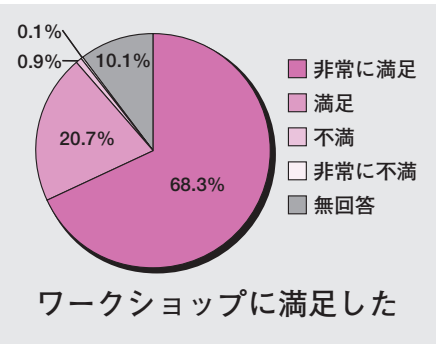
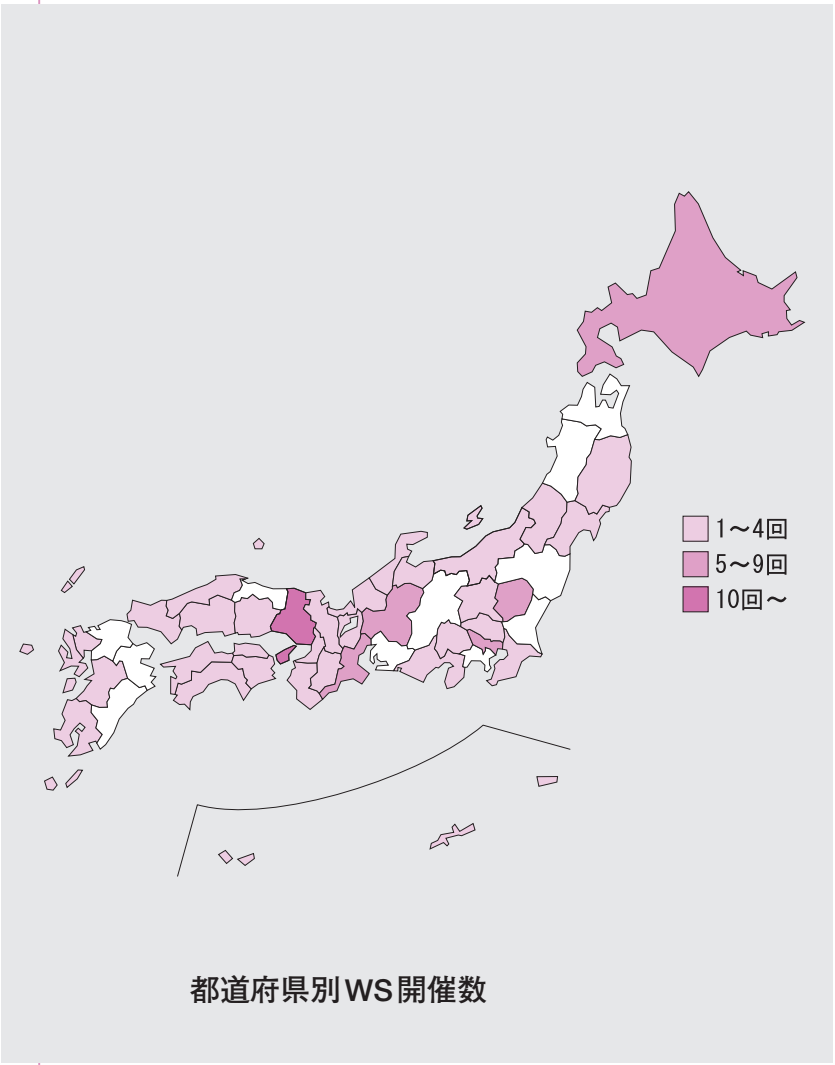
この事業では、モデル校10校（神奈川・埼玉・岐阜・茨城・新潟・長崎・福井・沖縄）の生徒及び教員を対象とし、質問紙調査と訪問調査を行います。それによって、プログラムの実施が生徒・教員・学校に与えるインパクトを測定し、実践校において、プログラムの目標がどの程度・どのような形で達成されているのか把握することを目指します。そしてその成果を先生方の現場での実践に活用していただくとともに、プログラム導入を決定する際の判断材料として、また自信をもって普及活動を展開するための材料として、教育関係者やライオンズにも役立てていただきたいと考えています。

ライフスキル教育普及事業

2009年は、ライオンズクエストの普及活動に取り組むライオンズクラブ準地区が27地区にのぼり、日本国内の35準地区のうち約8割が普及体制を整えました。それに伴い、各地のライオンズクラブメンバーが地域の教育委員会や学校に働きかけ、小・中学校教員を中心に教育関係者を集めてワークショップを開催するという流れが加速しています。ワークショップ開催希望の増加に対応するため、JIYDでは2008年から普及体制の強化に取り組み、2009年には日本人上級講師の誕生、認定講師2名の養成が実現しました。

ワークショップを99回開催しました

ライオンズクエスト普及活動の柱であるワークショップの2009年の開催数は、35都道府県で99回、2,568名の教育関係者が参加しました。このうち21回は特定の学校の先生方を中心とする校内ワークショップとして、3回は江戸川区、川口市、富士吉田市の各教育委員会主催の教員研修として行われました。



教員一人一人から協同での取り組みへ

従来はLCIFからアメリカ人上級講師を日本に招き指導を受けなければ日本でワークショップ講師を養成することができませんでした。そのため時間的・経済的、また言葉の面でのハードルが高い状態でした。

一方全国からのワークショップ依頼は増える一方で、講師の不足のためにお断りせざるを得ないことも増えてきました。こうしたご要望にお応えしていくため、08年度より、日本人上級講師の養成事業をスタートし、今年度、無事日本人初の上級講師が1名誕生しました。この上級講師により、新たに認定講師が2名誕生し、国内の認定講師は7名となりました。上級講師の誕生で、日本のライオンズクエスト普及体制はいっそう充実したといえます。

ライオンズクエスト説明員を養成しました

ライオンズクエスト説明員とは？

ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどで、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった人です。説明員は地元の学校や教育委員会などへプログラムの説明に赴いたり、セミナーを実施したりしています。

プログラムの普及により深く関わりたいライオンズクラブメンバーなどの希望者に、説明員になるための講習を行いました。新たに7名が説明員となり、全国で16名となりました。

ワークショップの案内を兼ねて、プログラムのエッセンスを短時間で体験してもらおうというセミナーのニーズも増えています。2009年は、全セミナーの4分の1にあたる21回に説明員が赴きました。説明員の活躍はなくてはならないものになっています。

モデル校を支援しました

プログラムを全校で実施するモデル校は、2009年末には33校に増加しました。これらのモデル校に対してフォローアップ研修会の開催や相談対応を行いました。フォローアップ研修会は、学校側のご希望により、認定講師が他の教員とともに実際のライフスキルの授業を見学し、その後指導講評する形が増えています。

その他

- ・セミナーを81回開催、教育関係者や保護者、ライオンズメンバーなど約4,300人が参加しました。
- ・ライオンズクラブへの働きかけとして、準地区での普及活動運営のサポート、ワークショップ・セミナーの講師派遣などを行いました。

本事業へのご支援

- ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会様より、東京のワークショップ開催（4回）と授業見学・研修会（2回）をご支援いただきました。
- マイクロソフト株式会社様より、ソフトウェアをご寄付いただきました。
- ダイドードリンコ株式会社様より、飲料自動販売機の売り上げの一部をご寄付いただきました。
- 日本財団様より、東京のワークショップ（2回）の会場を無償でご提供いただきました。

収支計算書 自2009年1月1日 至2009年12月31日

大科目	中科目	予算額	決算額	差異
【収入の部】				
会費収入	個人・法人会費収入	2,000,000	1,245,000	755,000
事業収入	ライフスキル教育普及事業			
	ワークショップ参加費収入	12,116,000	18,886,000	-6,770,000
	その他：体験会謝礼等	2,021,000	4,103,041	-2,082,041
	事業収入小計	14,137,000	22,989,041	-8,852,041
助成金収入	ライフスキル教育普及事業			
	ライオンズクラブ国際財団	40,747,000	42,554,159	-1,807,159
	その他	4,376,000	4,311,077	64,923
	助成金収入小計	45,123,000	46,865,236	-1,742,236
寄付金収入	使途指定寄付金（※）	3,700,000	3,042,067	657,933
	一般寄付金	200,000	181,000	19,000
	寄付金収入小計	3,900,000	3,223,067	676,933
その他収入	受取利息・雑収入	100,000	602,540	-502,540
	当期収入合計	65,260,000	74,924,884	-9,664,884
【支出の部】				
事業費	ライフスキル教育普及事業			
	ワークショップの開催	34,782,000	37,030,895	-2,248,895
	フォローアップ・ワークショップの開催	1,144,000	186,316	957,684
	普及・広報活動	7,266,000	6,664,049	601,951
	認定講師養成事業	2,500,000	2,525,108	-25,108
	事業運営費	4,164,000	4,110,590	53,410
	ライフスキル教育普及事業小計	49,856,000	50,516,958	-660,958
	広報事業（年報、ホームページ）	590,000	529,398	60,602
	事業費合計	50,446,000	51,046,356	-600,356
	一般管理費	7,559,000	8,110,769	-551,769
管理費				
投資活動支出	固定資産取得支出：備品購入支出	200,000	162,725	37,275
	当期支出合計	58,205,000	59,319,850	-1,114,850
	当期収支差額	7,055,000	15,605,034	-8,550,034
	前期繰越収支差額	57,772,825	57,772,825	-
	次期繰越収支差額	64,827,825	73,377,859	-8,550,03

貸借対照表 2009年12月31日現在

大科目	中科目	金額
【資産の部】		
流動資産	現金預金	57,579,452
	貯蔵品	2,066,165
	前払費用	755,215
	未収入金	14,240,931
	小計	74,641,763
固定資産	什器備品	192,943
	電話加入権	226,408
	敷金	300,000
	小計	719,351
資産合計		75,361,114
【負債の部】		
流動負債	未払金	303,557
	前受金	188,000
	預り金	225,147
	未払消費税	547,200
	小計	1,263,904
固定負債		-
負債合計		1,263,904
【正味財産の部】		
正味財産		74,097,210
内) 当期正味財産増加額		15,646,629
負債及び正味財産合計		75,361,114

監査報告書

監 査 報 告 書

2010 年 2 月 5 日

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
理事長 守随 武雄 殿

公認会計士 小坂 義人

私は、特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの 2009 年 1 月 1 日から 2009 年 12 月 31 日までの事業年度の下記の計算書類について監査を行った。

1. 収支計算書、正味財産増減計算書及び貸借対照表
2. 財産目録

この監査に当たって、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続を実施した。

監査の結果、法人の採用する会計処理の原則及び手続は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準及び定款（寄付行為）に準拠し、かつ、前事業年度と同一の基準に従って継続して適用されており、また、計算書類の表示方法は、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているものと認められた。

よって、私は上記の計算書類が特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムの 2009 年 1 月 1 日から 2009 年 12 月 31 日までの事業年度の収支及び正味財産増減の状況並びに同事業年度末日現在の財産の状態を適正に表示しているものと認める。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラムと私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

2010年度事業計画：ライフスキル教育普及事業

2010年度は、引き続きワークショップの開催を通して教育関係者にライフスキル教育に触れる機会を提供するとともに、モデル校の増設やワークショップ受講者のフォローによって、ワークショップが効果的に教育現場での実践につながるよう、授業実施率の向上に努めます。

1. 年間100回のワークショップを開催します

- おもに教育関係者を対象に、ライフスキル教育に触れ学んでいただくワークショップを引き続き開催し、2,500名の参加を目指します。開催は100回を予定しています。

2. ワorkshop受講者による、授業実施率の向上を目指します

- プログラムの効果が最大限期待できる学校全体での取り組みを推進するため、引き続き校内型ワークショップの実施によってモデル校の増設に努めます。
- ワorkshop受講者へのフォローアップ調査を通じて、受講後のプログラム実施の状況を把握し、現場での実践を支援する活動につなげていきます。
- フォローアップワークショップを開催し、ワークショップ受講者の疑問や不安を解消し、理解を深め、また受講者同士が交流できる場を設けます。開催は3回を予定しています。
- 日本語版教材の改訂作業を進め、より実践的で使いやすい新教材の早期提供を目指します。

3. プログラムの効果検証のため、モデル校での評価事業を実施します

- モデル校10校の生徒と教員を対象に、質問紙を用いた調査及び訪問調査を行い、プログラム実施のインパクトを検証します。

4. その他の事業

- ライオンズメンバーへの体験会や普及活動の提案・サポートなど、プログラム普及のパートナー団体として働きかけを行います。
- プログラムに関心をもつ全国の学校・教育委員会などに対して、体験会を実施します。

私たちの活動をご支援ください

青少年育成支援フォーラムでは、一人でも多くの青少年にライフスキルを届けるために、法人・個人、多くの皆さまからのご支援をお願いしています。

【会員の募集】：年会費：個人・5千円（1口）～／法人・20万円（1口）～

1年単位（1月～12月期）の年会費制です（入会金無し）。会費は法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。

【寄付のお願い】：会員入会の他に、寄付によるご支援も受付けています。ご寄付は法人・事業を維持・発展していくための経費等に充当されます。また、使途をライフスキル教育普及事業に限定したご寄付も受付けています。寄付金には決まった金額単位はありません。

【会員入会、寄付のお申込み方法】：会員入会・寄付のお申込みをご希望の場合は、以下までお問合せください。また、ホームページからお申込み・お問合せいただけます。

特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム（JIYD） 担当：馬淵
Tel. 03-3440-3373／Fax. 03-3440-4447／E-mal: info@jiyd.org

2009年度会員（2009年12月末日現在）

●法人：3社

学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校

株式会社スペースシャワーネットワーク

キッコーマン株式会社（敬称略、五十音順）

●個人：91名

会田 隆雄	石原 典子	伊勢戸 敏信	井村 昭弥
植松 健	大久保 良平	岡田 恭孝	喜志 房雄
北山 宏	西園寺 裕夫	佐渡 弘	島田 佳宣
少徳 敬雄	仲宗根 宗督	成瀬 健生	長谷川 一弘
松井 義之	松本 保孝	水谷 隆夫	百田 勝彦
山田 礼子	湯浅 清文	吉岡 京一	和智 武夫（敬称略、五十音順）

2009年度寄付者（2009年度12月末日現在）

●法人：4社

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

ダイドードリンコ株式会社

東京愛宕山ライオンズクラブ

トヨタエルアンドエフ東京株式会社（敬称略、五十音順）

●個人：14名

（上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご希望・ご承諾いただいた方のみ掲載しています。）

理事会（2010年4月1日現在）

理事長	守随 武雄	松下電器産業株式会社 客員
副理事長	中雄 政幸	青少年育成支援フォーラム 事務局長兼務（L.）
理事	野村 彰男	朝日新聞社ジャーナリスト学校 校長
	栗田 收司	青少年育成支援フォーラム 事業推進担当
	見上 良也	ライオンズクラブ国際協会330-A地区 元地区ガバナー
		ライオンズクラブ国際協会330複合地区 元ガバナー協議会議長
		学校法人東京芸術学園音響芸術専門学校 理事長
	西田 浩子	財団法人かめのり財団 理事・事務局長
	小西 宗仁	ライオンズクラブ国際協会333-C地区 元地区ガバナー
		日本ライオンズ連絡事務所 管理委員
		船橋商工会議所 副会頭
		株式会社シテイクリエート 代表取締役
	八畠 隆	ライオンズクラブ国際協会335-C地区 元地区ガバナー
		ライオンズクラブ国際協会335複合地区 元ガバナー協議会議長
		医療法人芳隆会 八畠医院 理事長
名誉理事	藤本 厚子	元幼稚園教諭
監事	渡辺 真一	ライオンズクラブ国際協会330-C地区 元地区ガバナー
		公認会計士

（L.＝ライオンズメンバー）（就任時期順、五十音順）

ライオンズクエスト認定講師（2010年4月1日現在）

岡松 佐知子	（スクールカウンセラー）		
北山 敏和	（元小学校校長）		
佐渡 涼子	（上級講師）	発行者	中雄 政幸
篠田 康人	（小学校教諭）	発行所	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム
嶋田 祐子	（元中学校教諭）	発行日	2010年10月31日
寺本 之人	（小学校教諭）	印刷	株式会社アネックス
外川 澄子	（小学校校長）		
	（五十音順）		